



2025年AOAセミナーの概要

| セッション/ 時間                          | スピーカー                    | スピーチ概要   |
|------------------------------------|--------------------------|--|
| <u>セッション 1</u><br>(開会挨拶・基調講演 I)    | 11月13日(木)<br>10:00-10:50 | <u>村山美彦</u><br>AOA会長(日本)                             |
|                                    |                          | <u>パク・ビョンヒ</u><br>NH生命保険社長(韓国)                       |
|                                    |                          | <u>リズ・グリーン</u><br>ICMIF CEO (英国)                     |
|                                    |                          | <u>メリーナ・モリソン</u><br>BCCM CEO(オーストラリア)                |
| <u>セッション 2</u><br>(利用者ニーズにこたえるために) | 11月13日(木)<br>11:10-12:50 | <u>ルチ・アガルワル</u><br>Vimo SEWA CEO(インド)                |
|                                    |                          | <u>ジャクリン・P・バレナ</u><br>1CISP ルソン担当執行責任者兼戦略責任者 (フィリピン) |
|                                    |                          | <u>国分聡人</u><br>コープ共済連 総合マネジメント本部 本部長 (日本)            |
|                                    |                          | <u>カン・ヒジョン</u><br>企画担当 NH生命保険(韓国)                    |
| <u>ランチセッション</u>                    | 11月13日(木)                | <u>監物竜太</u><br>スイス再保険上級ソリューション担当マネージャー(日本)           |
| <u>基調講演 II</u>                     | 11月13日(木)<br>13:50-14:50 | <u>ニック・ミンゴ</u><br>スイス再保険 上級リスクコンサルタント (シンガポール)       |



|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| <div>セッション 3</div> <div>(利用者のための組織であるために)</div> | <div>11月13日(木)</div> <div>15:10-16:50</div> | <div>ドナ・ディソン</div> <div>CLIMBS副社長(フィリピン)</div>                | <div>■利用者本位の組織づくり</div> <div>CLIMBSが、同組織が会員のために活動するという使命をどのように体現し続けているかを説明します。相互扶助、連帯、信頼という協同組合の原則に根ざした CLIMBS は、民主的なガバナンス、包括的な参加、教育、持続可能性をその成長に統合しており、協同組合の価値観は、その基盤であるだけでなく、信頼、回復力、共有の繁栄を育む上で最大のビジネス上の優位性でもあることを証明しています。</div>  |
|   |   | <div>高橋忠雄</div> <div>こくみん共済 coop シニア・アドバイザー（日本）</div>         | <div>■「新しい助け合い」を支える人材づくりとデジタル商品開発</div> <div>現在、こくみん共済 coop では「新しいたすけあい」の実現に向けて、人材育成とデジタル活用の両面から取り組みを進めています。「新しいたすけあい」は、今まで取り組んできた「たすけあい」に時代に即したデジタル技術を掛け合わせ、進化させたもの。実現には、デジタル技術はもちろんのこと、人への投資が重要であるため、こくみん共済 coop では、「人財アカデミー」の設立を通じて、人への投資を後押しし、組合員のための組織であり続けることを目指しています。</div>        |
|   |   | <div>キム・ヨンイル</div> <div>NH損害保険 副社長(韓国)</div>                  | <div>■韓国農業のレジリエンスと未来</div> <div>K-農業政策保険の概要、プログラムの事業成果、NH農協損害保険の中核的役割、そしてK-農業政策の将来ビジョン。</div>   |
|   |   | <div>野口剛志</div> <div>ギャラガー リー ジャパン 会長(日本)</div>               | <div>■パートナーシップのための企業文化の浸透</div> <div>顧客サービス、従業員／同僚、コミュニティの観点から「ギャラガー・ウェイ」について解説し、組織に文化を浸透させる方法についても触れます。また、投資家が企業文化を財務的成功の原動力として評価している点にも触れます。ギャラガーは上場企業であり、AOAメンバーが株主還元を重視していないことは承知していますが、ICMIFが取り組む『目的のための利益創出（Profit for Purpose）』イニシアチブは、価値創造の概念が類似しているため、AOA会員にも共感いただけると思います。</div> |
| <div>セッション 4</div> <div>(利用者の輪を広げるために)</div>    | <div>11月14日(金)</div> <div>10:00-12:10</div> | <div>アヒラ・デヴィ</div> <div>DAHN CEO(インド)</div>                   | <div>■インドにおけるDHAN財団の取り組み事例（ビデオ）</div> <div>相互マイクロ保険を通じたコミュニティレジリエンス構築におけるDHAN財団の革新的なアプローチを紹介します。貧困層や脆弱なコミュニティが、コミュニティ所有のリスク管理システムを通じて、生活・健康・作物・家畜のリスクを管理する力をいかに獲得しているかを明らかにします。金融包摂、技術、地域リーダーシップを統合することで、DHANはインド農村部全体で生計を強化し貧困を削減する持続可能なモデルを実証しています。</div>                               |
|   |   | <div>グラハム・クラーク</div> <div>アジア・アフィニティ CEO (香港)</div>           | <div>■会員の輪を広げる取り組み</div>  |
|   |   | <div>エメテリア・F・キハノ</div> <div>ASKI MBA CEO(フィリピン)</div>         | <div>■コミュニティに根ざしたマイクロ保険で包摂的成長を実現</div> <div>ASKI MBAがコミュニティ、パートナーシップ、エンパワーメント、金融保護を通じて会員基盤を拡大してきた軌跡を明らかにします。ASKIが女性や若者、先住民族コミュニティを、組織のリーダーや会員として積極的に参画させる手法を紹介し、変革の実例に焦点を当てます。協働と革新を通じて、ASKI MBAはフィリピン人家庭の包摂的成長とレジリエンス構築を継続しています。</div>   |
|   |   | <div>インディカ・キリワンデニヤ</div> <div>Sanasa Life 前代表取締役(スリランカ)</div> | <div>■包摂と協働による協同組合のイノベーション</div> <div>サナサ生命保険株式会社が若者・女性・少数派の参画を通じて金融包摂を拡大する協同組合としての歩みを紹介します。特に「サナサ・イディリヤ」プログラムが社会的エンパワーメント、デジタル変革、環境責任の推進役として果たす役割を強調します。最後に、協同組合の価値観に基づくグローバルな連携と持続可能な地域成長に向けたサナサのビジョンを概説します。</div>  |
|   |   | <div>川越剛</div> <div>JA共済連 再保険室長(日本)</div>                     | <div>■利用者の輪を広げるためのZenkyorenの新たな挑戦</div> <div>JA共済連は、東日本大震災の経験を通じて、協同組合としての使命とさらなるリスク対応力の重要性を再認識しました。近年のグローバル化や気候変動をはじめとして我々を取り巻くリスクは複雑化しているなかで、現在、我々は協同組合だからこそ向き合うべき課題に直面しております。このような背景のもと、JA共済連の資本を活用しながら世界のICMIF団体等のリスク移転の支援に資する新たな仕組みづくりに挑戦しています。</div>                                |

